

J-クレジット制度管理者御中

実績確認概要書

令和2年10月16日

審査機関名 ソロテック・サーティフィケーション・ジャパン株式会社

1. 排出削減事業の概要

排出削減事業名	A 重油ボイラから都市ガスボイラへの更新プロジェクト
承認番号	JCDM-PJKC1426
排出削減事業者名	ダイワ化成株式会社
排出削減共同実施事業者名	株式会社F Tカーボン
事業実施場所	大宮工場 (埼玉県さいたま市見沼区上山口新田 59-1)
事業の概要	A 重油ボイラ 4 基を都市ガスボイラ 4 基へ更新する。高効率の都市ガスボイラへ更新することで、省エネルギーを図り、CO2 排出量を削減するとともに、単位発熱量あたりの CO2 排出量が少ない都市ガスへ燃料転換することによって、CO2 排出量を削減する
排出削減量の計画	2011 年度： 54 tCO2/年 2012 年度： 223 tCO2/年 2013-2014 年度： 233 tCO2/年 2015-2016 年度： 235 tCO2/年 2017 年度： 233 tCO2/年 2018 年度： 247 tCO2/年 2019 年度： 187 tCO2/年 (事業実施期間合計 1,880 tCO2)
認証期間	開始日 2012 年 1 月 3 日 終了予定日 2020 年 1 月 2 日 ※J-クレジット制度への移行手続きにより、終了予定日は 2020 年 1 月 2 日となっている。

排出削減方法論	方法論番号 001 ボイラーの更新
---------	-------------------

2. 本実績確認の対象期間

2016年4月2日～2020年1月2日（第3回目実績報告）

3. 実績確認結果

本実績確認期間における排出削減量は、承認排出削減事業計画に従ってモニタリングされた結果に基づき算定されており適正である。

排出削減量	986 tCO ₂ （2016年4月2日～2020年1月2日）
-------	--

4. 実施した実績確認手続きの概要

以下の実績確認手続きにより、報告された排出削減量に重大な誤りがないことを確認している。

要件	審査手続き
排出削減量が承認排出削減計画に従って実施した結果生じていること。	1) 開始日の確認（初回実績確認の場合） 初回実績確認ではないため該当しない。 2) 対象期間中の設備稼働の確認 燃料使用量データ及び事業者へのヒアリングにより、導入設備は実績報告期間において継続的に稼働していたことを確認した。
排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていること	1) モニタリング方法の確認 燃料供給会社からの請求書による燃料使用量データ、事業実施前後ボイラーのカタログによる効率値及び排出削減事業関係者へのヒアリングにより、モニタリング方法が方法論及び当該削減計画に沿って実施されていたことを確認した。 2) 活動量の正確性 燃料供給会社からの請求書による燃料使用量データ及び排出削減事業関係者へのヒアリングにより、エネルギー使用量の記録・保存は適切になされており、活動量が正確に集計されていることを確認した。 3) 単位発熱量、排出係数等の係数の確認

	<p>J-クレジット制度のモニタリング・算定規程（排出削減プロジェクト用）Ver.3.6により、排出削減量の算定式及び使用されている単位発熱量、排出係数等は方法論及び承認排出削減事業計画通りであることを確認した。</p> <p>4) 排出削減量算定方法及び算定結果の確認</p> <p>排出削減量の算定結果を燃料供給会社からの請求書の燃料使用量データと集計表との突合、さらに計算過程の確認、再計算等実施した結果、排出削減量の算定結果に大きな誤りはないことを確認した。</p>
<p>算定結果がクレジット認証期間の終了日を超えないこと</p>	<p>今回の実績確認対象期間は2016年4月2日から2020年1月2日までとなっているが、J-クレジット制度への移行手続きにより、終了予定日は2020年1月2日となっているため、当該算定結果は適切であることを確認した。</p>

5. 承認排出削減事業計画からの重要な変更点についての評価

本実績確認期間の実績確認の結果、承認排出削減事業計画からの重要な変更点がないことを確認した。

6. 特記事項

本実績確認期間における省エネルギー量は原油換算-33 kl、熱量換算-1,279 GJであることを確認した。

なお、本案件は都市ガスボイラーの効率が、更新前 A 重油焚きボイラーの効率に対して、低位発熱量ベースでは効率改善しているが、高位発熱量ベースでは計算上で更新前 A 重油焚きボイラーの効率を下回っていることにより、省エネルギー量がマイナスとなっている。

以上